

## 2021年度決算の特徴

一般会計 歳入1,841億円、歳出1,756億円(△238億円)  
実質収支 82億円(前年40億円)  
繰越財源約2.6億円余を引く→財調基金41億、繰越41億  
単年度収支は 41.8億円(実質収支—前年度の実質収支)

歳入 1,841億円(前年比△197億円、9.7%)

市税 573億円(△20億円) 歳入全体の31%(前年度29%)

うち 市民税 229億円(△14億円)

個人市民税 233億円(△4億円) 所得割額の減

法人市民税 24億円(△10億円) 税率改定による減

固定資産税 225億円(△5億円)

都市計画税 44億円(△1.3億円)

市たばこ税 27億円(+2億円)

地方消費税交付金 87億円(+6億円)

地方交付税 170億円(+35億円) 臨時財政対策債償還基金費等の皆増

基地交付金 23.0億円(前年並み)

国庫支出金 475億円(△247億円) 子育て世帯臨時給付金、ワクチン接種等  
生活保護68億円、障害福祉45億円、児童手当30億円、再編交付金5.9億円

財産収入 5億円(△1億円) 市有地の売却収入の減

繰入金 15億円(△62億円) 財政調整基金からの繰入56→0.3億円

市債 216億円(+57億円)

このうち、臨時財政対策債87億円(前年は60億円)

普通建設事業債126億円、減収補てん債が皆減

(久里浜1丁目公園グラウンドの整備が開始)

収入未済額 22億円 うち市税16億円(前年度並み、2014年度37億円)

不能欠損額 2.3億円

自主財源 734億円(39.9%、前年39.2%)

依存財源 1,107億円(60.1%、前年60.8%)

歳出 1,756億円(△238億円、△12.0%)

人件費 293億円(△1.6億円)

扶助費 488億円(+91億円) 子育て世帯臨時給付金の給付

生活保護91、障害福祉117、子ども子育て103、児童手当44

投資的経費 182億円(+39億円)

総務費	179億円	(△4億円)	コロナ感染症対策基金の積立金が減少
民生費	722億円	(△312億円)	10万円特別給付金の皆減
衛生費	130億円	(+60億円)	ワクチン接種、市立病院への交付金の増
商工費	34億円	(△11億円)	中小企業への家賃支援補助などの減少
土木費	200億円	(+37億円)	久里浜1丁目公園グラウンドの整備
教育費	177億円	(+10億円)	給食センターの建設、校内LANの整備

**特別会計** 歳入 1,121億円 (+16億円) 国保+7億、介護+3億  
 歳出 1,080億円 (+29億円) 国保+9億、介護+15億、

○ **国民健康保険**

歳入 431億円 (+7億円) 保険料80、県302、繰入金31  
 収入未済額15億円、不能欠損額3.5億円  
 歳出 417億円 (+9億円) 保険給付費298、国保事業費納付金109  
 58,451世帯、87,088人

○ **介護保険費**

歳入 412億円 保険料86、国庫支出金84、支払基金95、県53、繰入金58  
 歳出 389億円 (+15億円) 居宅サービス146、施設サービス107  
 要介護・要支援の認定者 23,710人 (+347人)  
 2000年度では、認定者7,592名、繰入金21億円、歳出95億円

○ **公債管理費** 202億円 (+4億円、定期償還163、借り換え39)

○ **後期高齢者医療費**

歳入 67億円 (保険料収入56、繰入金10)  
 歳出 67億円 (広域連合納付金65)

○ **財務比率**

財政力指数 0.788 (前年0.814) 財政上の能力、1に近い程良い  
 経常収支比率 95.2% (前年101.8%) 財政の弾力性、低い程良い  
 公債費負担比率 14.6% (前年15.6%) 公債費の負担状況、低い程良い  
 実質収支比率 9.5% (前年3.8%) 3~5%が望ましい  
 (=実質収支額/標準財政規模)  
 経常一般財源等比率 95.4% (前年95.5%) 100を超えるほど良い  
 (=経常一般財源等/標準財政規模)

○ **財政調整基金** 年度末残高 90億円 (前年度末 70億円)

○ 2020 年度末現債高	一般会計	1,918 億円	(前年 1,858 億円)
	特別会計	5 億円	(前年 5 億円)
	下水道事業会計	737 億円	(前年 776 億円)
	水道事業会計	185 億円	(前年 180 億円)
	病院事業会計	23 億円	(前年 25 億円)
	総計	2,883 億円	(前年 2,861 億円)

年度末現在高の推移	総計	一般会計	臨財債等
1999 年度	3,560 億円	1,637 億円	227 億円
2005 年度	3,304 億円	1,743 億円	498 億円
2010 年度	3,030 億円	1,669 億円	602 億円
2015 年度	2,921 億円	1,746 億円	764 億円
2020 年度	2,861 億円	1,858 億円	834 億円
2021 年度	2,883 億円	1,918 億円	885 億円

- 水道事業 給水人口 380,482 人 (△6,237 人)、給水栓数 197,401 栓 (+645 栓)  
 年間給水量 5,734 万 m<sup>3</sup> (△86 万 m<sup>3</sup>、△1.5%) 供給単価 166 円  
 収益的収入 107 億円 (給水収益 94、水道利用加入金 1.4)、給水原価 149 円  
 当年度純利益 12 億円 (前年 13 億円)、資金残額 47 億円 (前年 59 億円)

- 公共下水道事業 処理人口 372,533 人 (△6,091 人)、水洗化率 96.5%  
 収益的収入 152 億円 (下水道使用料 73) 使用料単価 166 円  
 当年度純利益 6 億円 (前年 9 億円)、資金残額 22 億円、汚水処理原価 146 円  
 一般会計繰入金 37 億円 (うち資本費平準化債の償還分 13 億円)  
 資本費平準化債 10 億円 (△0.5 億円) 平準化債残高 199 億円

○ 病院事業

市民病院 入院患者数 66,696 人 (△7,157)、外来患者数 126,028 人 (△10,517)

引続き新型コロナウイルス感染症患者の入院診療を行い、専用病棟の人員を確保するため、地域包括ケア病棟を休止。呼吸器内科では、医師の退職で 4 月から入院診療を休止した。小児科の入院は休止中。

稼働病床：一般 376、感染症 6、(休床 100)

一般会計繰入金 6 億円 (前年 6 億円)

当年度純利益 0.6 億円 (前年は純損失 3.2 億円)

入院診療単価 67,995 円 (+3,281)

外来診療単価 13,984 円 (+6)

うわまち病院 入院患者数 93,964 人 (△150)、外来患者数 130,039 (+15,190)

引続き新型コロナウイルス感染症患者の入院診療を行い、回復期リハビリテーション病棟のうち1棟を専用病棟として運用

稼働病床：一般 337、療養 50、(休床 30)

一般会計繰入金 3.8 億円 当年度純利益 0.5 億円

入院診療単価 88,599 円 (+7,980)

外来診療単価 18,540 円 (△925)

- 広報よこすかの発行 月 17 万部 6,548 万円 (町内会配布手数料 3453 万) 広告料収入 414 万円
- テレビ・ラジオ広報事業 2,178 万円 (うち FM ブルー湘南 1452 万円)
- インターネット広報事業 961 万円 (HP の運用 788 万円、広告料収入 68 万円)
- 東京オリンピック関連事業 1,794 万円 (イスラエル柔道チーム受け入れ 1663 万円)
- マイナンバーカード交付事業 約 2 億円 (ほぼ全額国費)
- プレミアム付商品券の発行 6.6 億円 (国費)
- エコミル・ごみ処理施設の余剰電力売却収入 5 億円
- 住民税非課税世帯への臨時特別給付金の給付 3.7 億円 (全額国費)
- 子育て世帯臨時特別給付金の給付 5.1 億円 (国費 48 億円)
- 障害者福祉費 11.7 億円 (国 45 億、県 24 億) うち自立支援給付費 85 億円
- 児童手当 4.4 億円 (国 30 億、県 6 億) 21566 人
- 子育て世帯等臨時特別給付金 7.3 億円 (児童 1 人 5 万円 + 市単独分 3 万円)、18 歳以下
- 児童扶養手当 1.4 億円 (国 4 億) 父又は母と生計が別の 18 歳未満の児童 4394 人
- 小児医療費助成事業 1.1 億円 (県 1 億) 0 歳 ~ 中学生、入院・通院、所得制限なし
- 生活保護費 9.1 億円 (国費 66 億) うち医療扶助 42 億 4219 世帯 (H5. 2394 世帯)
- 新型コロナウイルス感染症対策 1.1 億円
- 新型コロナウイルス予防接種 4.6 億円
- ICT 活用教育推進事業 4.6 億円 (国費 3.2 億) 小中学校での 1 人 1 台パソコン配備など
- 中学校給食センターの整備 2.3 億円、総事業費 3.8 億円 (国費 22 億)、昇降機整備 1.9 億円
- 美術館運営 5.0 億円 入館者 9 万人 (有料 5 万人)、観覧料・駐車場収入 6,013 万円